

SSPに参加して

商学部,商学科 2年 28組 19番 二見笙子

「어제 뭐 했어요?(昨日何しましたか?)」「오늘은 뭐 할 거예요? (今日は何をしますか?)」何気ない日常会話が授業開始の合図だった。私は今回韓国の首都、ソウルに位置する西江大学校で、3月7日~3月26日までの約3週間 SSP（西江大学校による日本の姉妹校、協定校学生招待の特別短期研修プログラム）というプログラムに参加した。SSPでは、韓国語の語学はもちろん、日本語による韓国の経済や文化などを学ぶ講義も行われ、明治大学の他、一橋大学、上智大学、筑波大学の生徒達が参加していた。

西江大学校での授業は、語学の授業が毎日4時間、韓国について学ぶ韓国学の授業が週に2回1時間15分行われた。語学の授業は、レベル別にクラスが分けられ、私がいたクラスは生徒9人の少人数クラスであった。冒頭で述べたような日常会話、イラスト付きのカードを見ながら質疑応答をするグループワークや、クラス全員で、数字を覚えるために369ゲームをしたり、店員と客になりきり、買物での会話の練習をしたりした。ゲーム感覚で授業が進行し、クラスメイトとのコミュニケーションがとりやすく、韓国語を楽しく、そして会話を繰り返すうちに自然と自分の日常動作を相手に伝えられるようになる授業であった。

韓国学の授業では、韓国人の先生方が日本語で授業を進めて下さり、韓国のFTA（自由貿易協定）の進め方や自分が知らなかった韓国の文化や法制度を知ることや改めて日本と韓国が持つ歴史問題について考えさせられる良い機会を得られた。

研修に参加した当初は、海外で3週間も自分が生活できるのか、韓国語で少しでも会話をするようになるのかという不安があった。しかし、西江大学校の学生さん達がいつも親切にしてくれたことや、ランゲージエクスチェンジとして梨花女子大学の学生さんと知り合い、メールと一緒に食事をし、私のつたない韓国語をしっかりと聞いて返して下り、メールでわからなかった韓国語やよく使う韓国語を親切に教えて下さったことなどに支えられ、3週間で過ごせることができたのである。また、ランゲージエクスチェンジの方との出会いが、メールでは文章が書けるものの、会話になるとうまく話せない自分が本当にもどかしく、私にもっと韓国語で話せるようになりたいと思わせてくれた。

韓国で過ごした3週間は私に人と人との出会いや繋がり大切さを教え、そしてこれからも韓国語の学習を続け、また再びSSPで出会った方々と会いたいという気持ちにさせてくれた。





